

子宮頸がん予防ワクチン「サーバリックス」を知っていますか？

最近になって新しいワクチン(予防接種)が次々に導入されています。ヒブ(インフルエンザ菌)ワクチン、肺炎球菌ワクチン、そして昨年(平成21年)12月22日に発売された子宮頸がん予防ワクチン「サーバリックス」があります。

子宮頸がんは、子宮の入り口にできる癌(がん)です。初期の段階では自覚症状がほとんどないため、しばしば発見が遅れてしまいます。がんが進行すると不正出血や性交時の出血などがみられます。

日本では年間約15,000人が子宮頸がんにかかり、約3,500人が死亡しております。全世代の女性では乳がんの次に多いがんですが、20歳代~30歳代では最も多く、急増しています。

子宮頸がんの主な原因は発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)で、特に16型と18型の感染が高頻度(60%~80%)と言われています。HPVの感染経路は性的接触で、感染しても免疫ができ難いため何度でも感染を繰り返します。長い間感染が続くと一部が前がん病変(細胞異形成)となり、数年から十数年かけてがんが発症するのです。

従って、初交前に子宮頸がん予防ワクチン「サーバリックス」でHPV16型と18型の抗体を獲得しておくことが子宮頸がん発症の予防になると期待されています。現在すでに世界100ヶ国以上で承認されています。但し、「サーバリックス」は前がん病変の進行を遅らせたり、発症しているがんを治療したりする事はできません。

「サーバリックス」の対象年齢は、10歳以上の女性で3回接種することで十分な抗体価が得られます。抗体価の持続経過から子宮頸がんの発症予防効果は、現時点において一応20年間は続くと推測されています。今後、抗体の推移調査でより明らかになってくるでしょう。

接種方法は筋肉注射で、①初回 ②2回目(初回から1ヵ月後) ③3回目(初回から6ヵ月後)の3回接種が必要です。注射部位の副反応は、疼痛99%、発赤88%、腫脹79%で、全身性の症状は、疲労58%、筋肉痛45%、頭痛38%、胃腸症状25%その他となっていますが、数日で軽快します。

3回接種の総費用は約5万円と高いのが欠点でしょう。しかし、子宮頸がんをかなりの確率で予防できるわけですから一考する価値はあると思います。

数日前のNHKニュースでは、ある市町村は小学6年の女子全員を対象に学校で接種すると決めたようです。全額(4万5千円)が公費負担ということでした。実際にかん治療にかかる費用に対して予防接種の費用でがんを防ぐ方が、経済的メリットがあるという「対費用効果」を考えての英断だと思います。

日本において有料で行なわれているほとんどのワクチンは、欧米ではすでに公費負担で行なわれています。今日、日本はすでにワクチン後進国になり、諸外国よりも十数年の遅れをとっています。これからは少しでも予防医学に力を入れてもらいたいと切に願っています。(たまなは)